

## 1. セッション名

宇宙分野における SDGs の取り組みと連携についての研究（その 1）

宇宙分野における SDGs の取り組みと連携についての研究（その 2）

## 2. オーガナイザ氏名、所属

代表	氏名	所属
代表	岩渕 泰晶	JAXA 人事部付主任/NGSL 理事(JSASS 宇宙法政策委員)
	小塚 莊一郎	学習院大学法学科教授 (JSASS 宇宙法政策委員)
	梅宮 愛佳	NGSL 研究員(名古屋大学法学部)

## 3. 概要

2015 年 9 月 国連サミットにおける加盟国全会一致での採択「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」において、持続可能でよりよい世界を目指す国際目標として「持続可能な開発目標 SDGs (Sustainable Development Goals)」が記載された。17 のゴールと 169 のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない」が誓われている。SDGs は発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサルなものであり、日本国内でも様々な分野で取り組みがなされている。

日本政府においては、SDGs 実施を総合的かつ効果的に推進するため、内閣総理大臣を本部長とする SDGs 推進本部が 2016 年 5 月に内閣に設置され、同本部では、同年 12 月に国家戦略として「SDGs 実施指針」が決定された。2017 年 12 月には主要な取り組み等を盛り込んだ「SDGs アクションプラン 2018」、2018 年 6 月には「拡大版 SDGs アクションプラン 2018」が決定されるなど、政府として SDGs 実施が進められている。

2020 年 6 月、5 年ぶりに閣議決定により改定された、政府が宇宙基本法に基づき作成する「宇宙基本計画」においても、「宇宙政策をめぐる環境認識」「我が国の宇宙政策の目標」「宇宙政策の推進に当たっての基本的なスタンス」「宇宙政策に関する具体的アプローチ」の全項目に渡って SDGs への言及がなされている。

以下、抜粋すると「エネルギー、気候変動、環境、食糧、公衆衛生、大規模自然災害等の地球規模課題の解決や国連の持続可能な開発目標 (SDGs) の達成に我が国が貢献し、外交力の強化にもつなげていく手段として、我が国の優れた宇宙システムを積極的に活用していくことが重要となる。」「国際社会との協力の下、我が国がリーダーシップを発揮し、深刻化する世界のエネルギー、気候変動、環境、食糧、公衆衛

生、大規模自然災害等の地球規模課題の解決に貢献し、SDGs の達成につなげる。」

「測位、通信・放送、気象、環境観測、地球観測等のための宇宙システムを利用ニーズに基づいて着実に整備・活用し、災害予防と災害発生後の対応能力を向上させるとともに、国際社会との協力の下、積極的なデータ提供等を通じて、地球規模課題の解決や SDGs の達成に貢献する。」「地球規模課題解決に向けたルール作り・政策決定及び SDGs 達成に貢献する ESG 投資判断等の重大な経営判断等に不可欠な地球観測データ等の継続的な確保の観点から、基幹的な衛星技術として継続的に高度化を推進する。」「我が国の宇宙システムの海外展開に当たっては、「国家安全保障戦略」の下での我が国の安全保障政策や、「開発協力大綱」、SDGs との整合性を十分に踏まえることとする。」「宇宙分野における我が国の強みを活かした国際協力を進め、深刻化する世界のエネルギー、気候変動、環境、食糧、公衆衛生、大規模自然災害等の地球規模課題の解決や SDGs の達成に貢献する」とされている。

このように、宇宙と SDGs の関係が深まる中、本 OS セッションでは、宇宙と SDGs の課題や取り組みについて研究を開始している関係者を中心に、その様々な研究成果を共有することで宇宙と SDGs への理解を深めるとともに、更なる貢献として推進し、また、新たな取り組みへの機会とすることを目的として開催するものである。

今回、「宇宙と SDGs」を本学会の OS セッションで開始することで、昨年からは宇宙基本計画で大きくクローズアップされた SDGs を日本の宇宙 SDGs 元年として位置づけ、宇宙と SDGs の現在と未来を議論し、従来からのコミュニティを更に強化するとともに、宇宙以外の分野も含めた新規開拓とその相乗効果も期待する。

SDGs 自体が自律的な取り組みを尊重し、学際的な特徴があることも踏まえて、学会の場で発表・公開討論を行うことにより、多方面からの関心を高めて研究のすそ野を広げる意義があり、宇宙のもつ文理融合の総合システム的な側面を改めて発揮できるものと考えられる。なお、現在の SDGs は 2030 年までのアジェンダだが、2020 年代から次の段階に向けての議論が開始される。本 OS では、そうした SDGs の次のステップに向けた宇宙の貢献についても、その課題や解決の研究を不断に推進し、知見を蓄積していくことを目指すものである。